

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402416		
法人名	社会福祉法人 新切福祉会		
事業所名	グループホーム「ゆうか」		
所在地	長崎県南島原市有家町尾上2896番地2		
自己評価作成日	平成 30年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 31年 2月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 31年 1月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人法に定める非営利の法人による運営のグループホームです。同一敷地内にある保育園からは日々子供たちの声が響き、また、敷地から望む雲仙普賢岳が季節の移り変わりを感じさせる環境にあります。
 グループホームの特徴としては、
 ※車両(車椅子対応)を複数台整備し、通院や外出等がスムーズにできるように配慮しています。
 ※社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、ケアマネージャー等の有資格者が勤務しています。
 ※これまでのかかりつけ医に引き続きかかって頂けるようにしています。
 「家庭のくつろぎと家族のいたわり」を理念として、一日一日を大切に前向きに頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは有明海を眼下に眺める雲仙普賢岳の麓の自然豊かな場所に位置し、今年で開設18年目を迎えた。ホームでは入居者の重度化に伴い身体介護の比重が徐々に増えている現状にあるが、職員は入居者の心身の状態を把握し、家庭的な寛ぎが感じられるよう本人の意思を尊重した支援に日々努めている。今年度は管理者の交代による新体制でのホーム運営が開始され、管理者は職員それぞれの意見を汲み取りながら業務改善や風通しのよい職場環境づくりに努めており、前管理者が築き上げたチームワークを更に引き出していることが窺える。職員は入居者が持つ力を引き出せるようその方の心をほぐす言葉掛けを心掛けており、職員の支援によって入居者が書道教室の講師をするなどその方らしい暮らしの実現に向けて取り組んでいる。ホームでは職員全体で外部からの目線を大事に捉えながらサービスの質の向上を目指す業務に取り組んでおり、どこにも負けないホームづくりを目標とする管理者や職員の姿は今後ますます期待の持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ゆうか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的なくつろぎと家族のいたわりのある生活をという理念の元、職員採用時、職員会議時にこの理念にこめられた思いを話している。	ホーム理念は共用空間に掲示し、管理者が日常的に現場に入り、日々の支援の中で何か判断する場面や入居者とのコミュニケーションの中に理念を取り入れている。また、ユニット毎の目標や個々に年間目標を設定するなど、職員それぞれが目の前の状況に真摯に向き合い、課題を修正しながらホーム全体で支援の方向性を統一する姿勢が窺われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内のこども園や小学校の行事、お祭り、文化展への出展など積極的に参加し交流を深めている。	ホームは地域に開かれた事業所との意識が高く、近隣小学校の行事や同法人保育園の運動会への参加などを通して地域住民との交流がなされている。また、地元消防団とは運営推進会議に参加されている方を介して関わりを持ち、地域の祭りが催された際には神輿がホームへ立ち寄るなど地域住民の一員としての交流もある。ホームでは地域と繋がりを広める取り組みに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中、高校の福祉体験学習を受け入れ、認知症やグループホームについての説明を行い理解を深める努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族の代表、地域の代表、行政の職員等に参加頂き、日頃のサービスや取組状況、事業計画等を二か月に1度開催し色々な立場からの意見、要望等を聞きサービスの向上につなげている。	運営推進会議では入居者の日々の暮らしぶりや行事報告など写真(事業所だより)を用いて説明し、視覚から理解しやすい工夫がなされている。会議はざっくばらんな雰囲気の中でホームでの支援の実情や課題を提示し、参加者からの支援の質への評価や意見を受け入れながら運営の透明性に繋げるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種行政手続き、運営推進会議、介護保険関係等の相談や助言、支援をして頂く働きかけを行っている。	ホームは運営推進会議を通して市担当者との関わりを持ち、ホームで課題が生じた際には相談や報告を重ね、理解を深めている。法人代表者は市担当者との日常的なやり取りを行っているほか、管理者も課題解決に向け積極的に関わりを持つよう努めており、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修や、職員会議にて話し合いを行い、身体拘束をしないケアを行っている。	職員は入居者の心情に寄り添う対応に努め、ホームでは現在身体拘束の該当者はなく、今後も行わない方針となっている。ホームでは運営推進会議の際に身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束についての指針の確認や三原則(切迫性、非代替性、一時性)の理解など全職員に向けた研修の機会も設けている。また、ヒヤリハットを活用し事故原因の考察や方針の共有に繋げており、身体拘束のない暮らしの実現に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて議題にあげ、職員同士が話し合い互いに声掛け合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を深めるようにしている。以前、南島原成年後見センターの日常生活自立支援事業を利用した例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご家族ご本人との面談を行い、理解しやすいような説明を行う事に心掛けており、都度疑問点や不安の有無を確認し納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	諸々の意見を職員会議にて共有し又、運営推進会議においても公表し外部からの意見も含め運営に反映させている。ご意見箱の設置や苦情の窓口の紹介、重要事項説明書では第三者委員及び県社協の運営適正委員会の案内もしている。	職員は入居者の心身の変化や状況把握などの理解に努めている。家族とは挨拶や入居者の近況報告を通して関わりを深めている。遠方に暮らす家族には手紙や電話を介して関わりを持ち、家族の不安や悩みに寄り添うよう努めている。ホームでは家族的な関わりの中から信頼関係を構築し、家族の安心感に繋げるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中でも意見交換しており反映させている。	職員は、月1回行われる職員会議や朝の申し送り・ミーティングなどで職種や立場の違いなどから感じる小さな気づきを互いに伝え、よりよいケアの実現に向け取り組んでいる。行事やレクリエーションなどの余暇活動についても担当者を中心に役割分担を行い、互いに新しいアイデアを提案するなど、職員が主体的に動ける業務体制づくりがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対するやりがいを感じられるように労働時間の変更を行ったりして労働環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを把握し個々に合った研修に行くようにしている。研修終了後には復命書を作成し職員会議の中で研修内容を発表し他職員とともに意識、能力向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会へ加入しホーム長会議への出席、意見交換において得た情報の共有、各種研修への参加を促しサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者がご家族ご本人と複数回面談し、ご本人ご家族の訴え、要望を聞きとったり、感じ取り、提案、実践することで安心できる環境・関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に現在の状況や、要望をお聞きしより良いケアに向けた関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を把握し、サービス導入段階から要望を反映できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員は家族の一員だという認識をもって日々生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人の要望をよく聞きようになっている。ゆうかだよりや、お手紙、面会時に本人の状況をお話することで現在の様子を知って頂き協力して頂けるような事があればお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や、ドライブにて馴染みの場所へお連れしたり、行きつけの美容室へ行ったり、お墓参りへお連れしたりして関係が途切れないようにしている。	ホームでは、入居前まで大切にしてきた馴染みの場所や対人関係が継続できるよう外泊や外出、面会等を制限せず柔軟な対応に努めている。書道の心得がある方が、入居後も職員の支援によって講師を担い友人や知人との楽しい時間を過ごすなど、本人の誇りを尊重するとともにこれまで大事にしてきた関係が途切れないよう取り組んでいることが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを隔てずに知人や同郷の方などと交流を図ったり、レクリエーションや日頃のケアの時も関わりを持って頂ける機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退所となった利用者へのお見舞いに伺ったり、又、その家族からの相談にのりその後もフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話などから本人の思いを聞いたり、感じとりその思いを汲み取りケアに反映させている。	職員は入居者との関わりの中で会話や表情からその方の心情を汲み取り、日課やこだわりなど入居者一人ひとりが大切にしている考え方や思いの理解に努めている。また、職員の思い込みや決めつけとならないよう注意を払いながら寄り添い、本人の自信に繋げるとともに、本人が望む暮らしの実現に向けて日々取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族のみでなくこれまでサービスの利用があれば、ケアマネや医療機関からの情報の収集を行いその方に合ったサービスの提供をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おひとりおひとりの一日の過ごし方、心身の状況を把握し小さな変化も気付くよう注意して情報共有、状況の変化に応じた対応が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時、ケース会議時に担当職員からの情報、ご家族からの意見要望もお聞きし、現状に合った介護計画を作成している。	職員は入居者や家族との会話の中から暮らしの意向を確認し、ケアプランは入居者それぞれに応じた内容での作成がなされている。プラン作成時、計画作成担当者は現状を家族へ説明する際分かりやすい言葉の使用を心掛けている。また、ケース記録に記載された本人の仕草や表情などをもとにプランの実施状況を評価し、その都度目標達成状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、個々の情報はケース記録に記載し職員間で共有している。後での振り返りや計画の見直しに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を尊重しおひとりおひとりの状況に応じて臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こども園の訪問や、小中高校の職場体験等、地域のお祭り、行事参加、文化展への作品出展で役割や、やりがいを持って頂く支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人、ご家族と相談しかかりつけ医への受診を勧めている。在宅時よりのかかりつけ医の方が利用者也安心されている。職員もそれぞれのかかりつけ医との連携をとり体調不良時には受診し日頃の状態をドクターへ詳しく報告している。	ホームでは入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう取り組まれている。職員は主治医や医療連携看護師と細目に連絡や報告を行い現状の対応について指示を仰ぐとともに、入居者の体調変化や異変の兆候を記録しながら細目な経過観察や体調管理に努め、入居者の体調変化にも迅速に対応できるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態を観察把握し看護職員に報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は病院関係者との情報交換、連携を密に行い早期退院に向けた取り組みを行っている。又、定期的に訪問しご本人の精神安定を図るとともに状態の把握や病院関係者との情報交換を行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を交付している。もし、状態に変化があった場合には利用者とそのご家族の意向に応じそれに沿った支援が出来るよう適宜職員、主治医、ケアマネ等関係者と連携し情報共有している。	ホームでの看取りについては家族の希望により医療機関への入院が多く、実施されていない。ホームでは入居時に看取り指針についての説明や、入居時や体調が変化した場合など、その都度家族の意向を確認し、心配に思う家族の心に寄り添っている。また、食事形態をその都度考慮するなど、できるだけ家族の希望に沿った看取りとなるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が順次、救命救急の講習を受けたり、大村の消防学校の宿泊訓練へ参加している。急変時や事故発生時に迅速に対応できるよう応急処置、緊急連絡の手順の理解に努めている。受講後は職員会議にて他職員へもその内容を発表する場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施している、そのうち1回は夜間想定や自然災害想定し地元の消防団の参加にて、消火、通報、避難誘導の訓練を行い、消火器、通報措置、避難経路の確認が出来るようにしている。訓練後は職員会議にて消防署よりの注意すべき点や、反省点の話合いを行っている。	消防計画に沿った訓練では訓練の手順や入居者の状態の確認が行われ、入居者の安全確保に繋がる取り組みがなされていることが窺える。また、年2回行われる訓練の内1回は地元消防団の参加があり、団員によるホーム周辺の水源の把握や避難状況の理解にも繋がっている。訓練では実際に職員が水消火器を使用し手順が確認できており、風向きに応じた避難経路の選択など具体的な内容が話し合われている。	ホーム立地条件の確認や考え得る風水害についての意識はあるものの、今年度は訓練実施に至っていない現状にある。身の回りに起き得る災害に対する職員の意識を深めるとともに、例えば災害時の連絡方法や持ち出し品への意識付けを行い、訓練時の職員の振り返りを記録に整備するなどし、更なる防災への意識を深める取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を重視した上でその人に合った言葉掛けを行っている。言葉使いや態度にて利用者が萎縮したり、恥ずかしい思いをしないように職員間でも注意しながら言葉かけの配慮をしている。	職員は目線の高さや言葉の掛け方などに注意を払い、入居者を人生の先輩とする姿勢で関わっている。また、自分が発した言葉が相手を傷付けるものとなっていないか振り返りを行うとともに、不適切なケアに繋がっていないかなど職員間でも互いに声を掛け合い取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の意思を尊重し、意見や希望などが言い易いような配慮をしておき、お買い物や美容院など希望があればそれに沿うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりの生活や習慣に応じて、居室で過ごしたり、ホールで過ごしたりと本人の希望やご家族に情報を頂きながら希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室や美容院など希望を聞き予約や送迎、付添を行っている。外出時や受診時などもお気に入りの服などを本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おひとりおひとりに合った力を生かして調理の補助など職員と利用者で協力し合い食事の準備をして、食事を楽しみを持って頂いている。旬の食材を取り入れ栄養のバランスや利用者の好みを取り入れたメニューを工夫している。	献立は入居者が口に運びやすいよう食材の大きさや柔らかさに配慮し、献立に合う食器で盛り付け、自分で食べることができるよう工夫がなされている。入居者の中には自前のエプロンを身に付け自ら炊事に参加する方もおり、家事をするという役割を無理のない範囲で担いながら生活する様子が窺われた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おひとりおひとりの状態や習慣に応じて食べたい物、食べる量、食事形態をその方に合わせて提供している。水分補給もその方に合わせた形態、温度で提供している。毎食毎に食事チェックを行い記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛け誘導を行い実施している。自力困難な方には、介助を行い口腔清潔を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用に関してはご家族の経済的負担にもつながるので出来るだけ減らせるように努力している。その方に合わせた声掛け、誘導を行い出来るだけトイレでの排泄を行っている。	ホームでは入居者の心身の状態に応じた排泄方法が検討され、排泄への声掛けやタイミングを図りながらできるだけオムツを使わない工夫がなされている。職員は排泄支援に関わる際どこに介助が必要なのかその都度アセスメントを行い、排泄動作や移動・移乗の能力が維持できるようにその方に合わせた介助方法を見直し支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にておひとりおひとりの排泄パターンを把握し、小まめな水分補給や散歩などを行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やその日の体調に注意しながら一人一人に沿った入浴支援を行っている。	ホームでは入浴日の設定はあるものの、受診や外出、体調面など入居者のタイミングに合わせて臨機応変な対応がなされている。職員は、入居者にとって入浴が嫌なものにならないよう失敗に焦点を当てた対応は行わず、動作がまごつく中にもできるだけ自分で衣類着脱ができるよう、快適な入浴環境が整えられている。また、脱衣室ではヒーターを使用することでヒートショックへの対策が講じられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族からの情報の元に日頃の生活習慣を考慮し、居室にて昼寝をしたり、ホールにて職員と過ごしたり自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の通院記録の作成や、処方薬をまとめたファイルを作成し、何の薬を飲んでいるのかといった情報を日々更新し把握するようにしている。服薬しづらい方には、トロミをつけたり服薬ゼリーを用い確実に服薬出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や趣味を取り入れ、季節の行事の飾り付けや作品の作成等にて楽しんで頂く工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子のまま乗車出来る車両があるので季節や体調に配慮しながら、コレジオホールの文化展、小学校の八里祭り、クリスマスのイルミネーション見学等支援している。また、ご家族の協力の元、年忌法要や墓参り等の支援も行っている。	職員は、入居者の気分転換が図れるよう家族の協力による外出や個別での散歩の機会など、外部との接点を大切に日々の支援に取り組んでいる。日常的にホーム敷地内で外気浴や植栽を眺めることも多く、外気に触れながら季節感を意識させる働きかけがなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態や能力に応じ、ご家族とも相談のうえでお金の所持をして頂いている。希望のお店にて買い物をしてご自分でお支払いが出来る方は、職員が付き添いながらして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に応じて電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。携帯電話を所持されている方もいらっしゃる、自由にご家族や知人との会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	おひとりおひとりが過ごしやすいように照明、カーテン、ソファの位置の配慮をしている。空調も利用者に合わせて調節し換気も行っている。玄関、ホールには季節のお花や、利用者が作成した作品等を飾って楽しんでもらっている。	ホーム共用空間には入居者が腰掛けやすい高さのソファが設置され、気の合う入居者同士での談笑や窓辺で日向ぼっこを楽しむなど、入居者それぞれが自分のお気に入りの場所を見つけながら同じ時間を共有できるよう配慮されている。また、照明やカーテン、家具などによって家庭的な雰囲気を醸し出し、窓は二重構造で断熱性にも優れており、冬は暖かく夏は涼しい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、好きな場所に座っておしゃべりを楽しんだり、一人になりたい時には居室へ行き、好きな時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅で使われていた馴染みの家具や品物をお持ち頂き、安心して過ごして頂くように配慮している。	ホームでは入居者それぞれの使い慣れた手回り品や調度品の持ち込みがあり、生活動線や手の届く高さとなっているか配慮しながら自分らしい暮らしが継続できるよう取り組んでいる。居室に家族の写真や表彰状、位牌などが身近にあることによって安心感が生まれており、職員は居室がその方にとって寛げる空間となるよう家族とともに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	おひとりおひとりの出来る事を探し、トイレ、食堂、居室等の理解をし、行動できるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 アネックス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的なくつろぎと家族のいたわりのある生活をという理念の元、職員採用時、職員会議時にこの理念にこめられた思いを話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内のこども園や小学校の行事、お祭り、文化展への出展など積極的に参加し交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中、高校の福祉体験学習を受け入れ、認知症やグループホームについての説明を行い理解を深める努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族の代表、地域の代表、行政の職員等に参加頂き、日頃のサービスや取組状況、事業計画等を二か月に1度開催し色々な立場からの意見、要望等を聞きサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種行政手続き、運営推進会議、介護保険関係等の相談や助言、支援をして頂く働きかけを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修や、職員会議にて話し合いを行い、身体拘束をしないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて議題に揚げ、職員同士が話し合い互いに声掛け合いながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を深めるようにしている。以前、南島原成年後見センターの日常生活自立支援事業を利用した例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご家族ご本人との面談を行い、理解しやすいような説明を行う事に心掛けており、都度疑問点や不安の有無を確認し納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	諸々の意見を職員会議にて共有し又、運営推進会議においても公表し外部からの意見も含め運営に反映させている。ご意見箱の設置や苦情の窓口の紹介、重要事項説明書では第三者委員及び県社協の運営適正委員会の案内もやっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中でも意見交換しており反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対するやりがいを感ぜられるように労働時間の変更を行ったりして労働環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを把握し個々に合った研修に行くようにしている。研修終了後には復命書を作成し職員会議の中で研修内容を発表し他職員とともに意識、能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会へ加入しホーム長会議への出席、意見交換において得た情報の共有、各種研修への参加を促しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者がご家族ご本人と複数回面談し、ご本人ご家族の訴え、要望を聞きとったり、感じ取り、提案、実践することで安心できる環境・関係が気づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に現在の状況や、要望をお聞きしより良いケアに向けた関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を把握し、サービス導入段階から要望を反映できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員は家族の一員だという認識をもって日々生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人の要望をよく聞きようになっている。ゆうかだよりや、お手紙、面会時に本人の状況をお話することで現在の様子を知って頂き協力して頂けるような事があればお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や、ドライブにて馴染みの場所へお連れしたり、行きつけの美容室へ行ったり、お墓参りへお連れしたりして関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを隔てずに知人や同郷の方などと交流を図ったり、レクリエーションや日頃のケアの時も関わりを持って頂ける機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退所となった利用者へのお見舞いに伺ったり、又、その家族からの相談にのりその後もフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での中での会話などから本人の思いを聞いたり、感じたその思いを汲み取りケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族のみでなくこれまでサービスの利用があれば、ケアマネや医療機関からの情報の収集を行いその方に合ったサービスの提供をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方、心身の状況を把握し小さな変化も気付けるよう注意して情報共有、状況の変化に応じた対応が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時、ケース会議時に担当職員からの情報、ご家族からの意見要望もお聞きし、現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、個々の情報はケース記録に記載し職員間で共有している。後での振り返りや計画の見直しに約立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を尊重し一人一人の状況に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こども園の訪問や、小中高校の職場体験等、地域のお祭り、行事参加、文化展への作品出展で役割や、やりがいを持って頂く支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人、ご家族と相談しかかりつけ医への受診を勧めている。在宅時よりのかかりつけ医の方が利用者也安心して利用されている。職員もそれぞれのかかりつけ医との連携をとり体調不良時には受診し日頃の状況をドクターへ詳しく報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状況を観察把握し看護職員に報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は病院関係者との情報交換、連携を密に行い早期退院に向けた取り組みを行っている。又、定期的に訪問しご本人の精神安定を図るとともに状態の把握や病院関係者との情報交換を行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を交付している。もし、状態に変化があった場合には利用者とそのご家族の意向に応じそれに沿った支援が出来るよう適宜職員、主治医、ケアマネ等関係者と連携し情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が順次、救命救急の講習を受けたり、大村の消防学校の宿泊訓練へ参加している。急変時や事故発生時に迅速に対応できるよう応急処置、緊急連絡の手順の理解に努めている。受講後は職員会議にて他職員へもその内容を発表する場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施している、そのうち1回は夜間想定や自然災害想定し地元の消防団の参加にて、消火、通報、避難誘導の訓練を行い、消火器、通報措置、避難経路の確認が出来るようにしている。訓練後は職員会議にて消防署よりの指定事項や、反省点の話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を重視した上でその人に合った言葉掛けを行っている。言葉使いや態度にて利用者が萎縮したり、恥ずかしい思いをしないように職員間でも注意しながら言葉かけの配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の意思を尊重し、意見や希望などが言い易いような配慮をしておき、お買い物や美容院など希望があればそれに沿うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活や習慣に応じて、居室で過ごしたり、ホールで過ごしたりと本人の希望やご家族に情報を頂きながら希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室や理容院など希望を聞き予約や送迎、付添を行っている。外出時や受診時などもお気に入りの服などを本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合った力を生かして調理の補助など職員と利用者と協力し合い食事の準備をして、食事に楽しみを持って頂いている。旬の食材を取り入れ栄養のバランスや利用者の好みを取り入れたメニューを工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や習慣に応じて食べたい物、食べる量、食事形態をその方に合わせて提供している。水分補給もその方に合わせた形態、温度で提供している。毎食毎に食事チェックを行い記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛け誘導を行い実施している。自力困難な方には、介助を行い口腔清潔を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用に関してはご家族の経済的負担にもつながるので出来るだけ減らせるように努力している。その方に合わせた声掛け、誘導を行い出来るだけトイレでの排泄を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、小まめな水分補給や散歩などを行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やその日の体調に注意しながら一人一人に沿った入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族からの情報の元に日頃の生活習慣を考慮し、居室にて昼寝をしたり、ホールにて職員と過ごしたり自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の通院記録の作成や、処方薬をまとめたファイルを作成し、何の薬を飲んでいるのかといった情報を日々更新し把握するようにしている。服薬しづらい方には、トロミをつけたり服薬ゼリーを用い確実に服薬出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や趣味を取り入れ、季節の行事の飾り付けや作品の作成等にて楽しんで頂く工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子のまま乗車出来る車両があるので季節や体調に配慮しながら、レゾホール文化展、小学校の八里祭り、クリスマスのイルミネーション見学等支援している。また、ご家族の協力の元、年忌法要や墓参り等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態や能力に応じ、ご家族とも相談のうえでお金の所持をして頂いている。希望のお店にて買い物をしてご自分でお支払いが出来る方は、職員が見守りの元して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に応じて電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。携帯電話を所持されている方もいらっしゃる、自由にご家族知人との会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人が過ごしやすいように照明、カーテン、ソファの位置の配慮をしている。空調も利用者に合わせて調節し換気も行っている。玄関、ホールには季節のお花や、利用者が作成した作品等を飾って楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、好きな場所に座っておしゃべりを楽しんだり、一人になりたい時には居室へ行き、好きな時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅で使われていた馴染みの家具や品物をお持ち頂き、安心して過ごして頂くように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を探し、トイレ、食堂、居室等の理解をし、行動できるよう支援している。		